

医療分野発展で連携

松阪の6社「メディカルメンバーズ」発足

新製品の共同開発も

「松阪メディカルメンバーズ」の参加者ら



して新製品の共同開発につなげていきたい考えだ。

日用品製造販売の岩崎工業、樹脂ホース製造を手掛けるオクムラ、物流加工のサカキシ&Eワイズ、計測・制御機器の橋本電子工業、保冷剤や作業用手袋の三重化学工業、自動車部品メーカーの三重金属工業の6社でスタートした。いずれもコア技術を持ち、県が進めるメディカルバレー構想の

もと、医療分野に参入・強化している企業がそろった。まずは各社が工場見学などお互いの技術・ノウハウを知ることから始め、2カ月ごとに情報交換を行っていく予定だ。

松阪市大口町の三重化学工業・ミエラボで発足式が開かれ、参加企業ほか、中部経済産業局、三重県、松阪市、三重県産業支援センター、三重大学と地元産官学関係者が集まった。

MMMリーダーに就任した岩崎工業常務の家根谷武氏は「松阪発、三重発の新たな開発商品が生まれていけばと期待している」とあいさつ。松阪市の竹上真人市長は「市として全力で支援していきたい」と期待した。

三重化学工業の山川大輔社長は「共創して相乗効果を生み出したい。共同で展示会などにも出していきたい」と意気込んだ。

【三重】松阪市内に本社・工場を構える異業種6社が8日、医療分野の発展を目指してチーム「松阪メディカルメンバーズ（MMM）」を発足した。人的・技術交流や情報共有を進め、各社が抱える課題解決を図るとともに、会員内で連携